

博物館だより



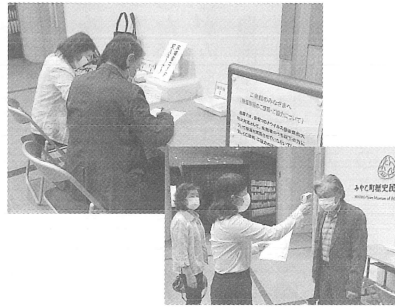
No.164

令和2年7月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

◆博物館NEWS ①臨時休館がようやく終了 博物館が再開しました!

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため3月から臨時休館していた博物館ですが、去る6月2日(火)、ようやく開館することができました。



▲ご来館の皆様へ検温と来場者カードの記入をお願いしています

とはいえ「新しい生活様式」を踏まえての開館となるため、当分の間ご利用にあたり次のような規定を設けさせて頂きました(6月2日現在)。皆様にはご不便・ご面倒をおかけいたしますが、宜しくご理解・ご協力のほどお願いいたします。

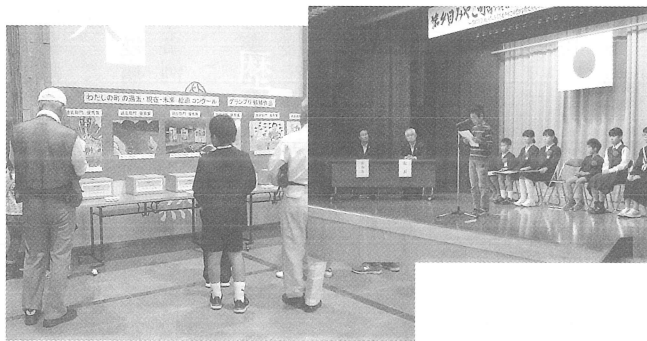
- 検温の実施および発熱等の症状顕著な方等の入場制限
- 来場者カードの記入
- マスク着用の徹底
- 手洗い、アルコール消毒の励行
- 他者との十分な距離の確保
- 当分の間の休止事項
 - ・団体(20名以上)の受入れ
 - ・学芸員等による展示解説
 - ・タッチパネル等の利用
 - ・研修室の利用申込み対応

なお、規定は新型コロナウイルスの拡散状況に応じて適宜調整致します。ご了承ください。

②残念ですが今年はお休み… 今年の文化のみやこづくり記念 絵画・作文コンクールは 中止になりました!

博物館が応募窓口となつて続けてきた右のコンクールですが、今年には新型コロナウイルスの感染拡大に伴う授業時間の延長等で、子どもたちが十分な創作時間を確保することが難しいと見込まれることから、募集を中止することとしました。

せっかくなの作品づくりの時間が子どもたちや関係者の負担になることは避けなければなりません。来年、素晴らしい力作が集まることを期待したいと思います。



▲作文朗読と絵画の人気投票が名物のコンクール(過去の開催写真)

◆講座教室催し物ガイド 7月以降の歴史講座について

当館主催の歴史講座(4教室)については、運営体制や環境に万全を期すため、8月一杯まで開催を見合わせることに致しましたのでご了承の程お願い致します。

なお、再開は9月からを予定しておりますが、事態の推移に伴い変動することがございますので併せてご了承下さい。

博物館友の会定期総会報告

友の会の今期総会は、会歴史上初の「書面開催」となりました。手続や書類に若干の手直しはありましたが、お陰をもちまして議事は全て承認いただき、新年度の会の活動がスタートしました。

なお、コロナ禍中の事業運営となるため会員や関係者のご理解・ご協力が欠かせません。これまで以上のご支援をお願い致します。

博物館で「楽習」しませんか?

貴方も一緒に学びませんか?誰でも、今からでも、お試し参加もOKです。詳しくは博物館へ!

①歴史講座(4教室開設)

館や町内外の文化遺産を題材に、町の歴史と文化を学びます。

②文化遺産ボランティア養成講座

町の宝を自分達の手でガイド&ガイドできるよう「楽習」する講座です。

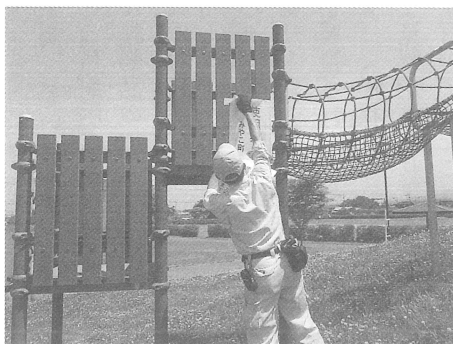
③博物館友の会

「故郷を楽しく学ぶ」がモットーの「楽習」満載の会です。

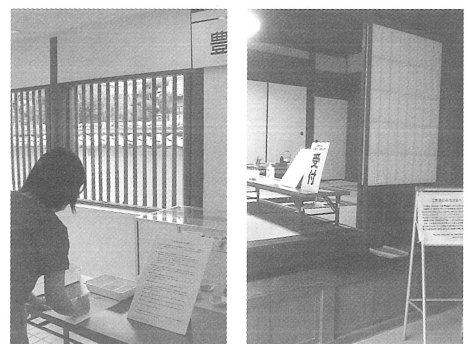
6月の業務日誌から

6月2日(火)、豊前国分寺案内所と重要文化財永沼家住宅の見学がほぼ通常どおりできるようになりました。コロナ対応で一部利用や見学を制限していましたが、これにより元通りです。

6月2日(火)、緊急事態宣言を受け、豊前国府跡公園内の遊具に取付けていた拘束を解放しました。使用後の手洗いで感染は十分防げるとのことで、子ども達の歓声が返ってくるのが楽しみです。



▲遊具各所に取り付けたテープや掲示を撤去しました



▲両施設とも長時間滞在時は来場者カードを記入いただきます

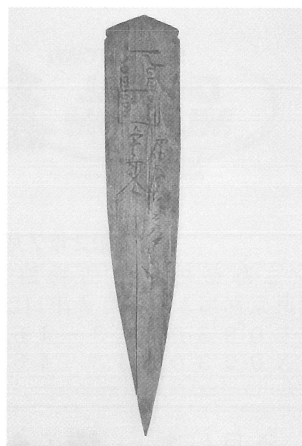
みやこの歴史発見伝 127

令和とその時代 ⑧

「古代のみやこにみられる
疫病と医療の歴史③」

幻の薬? 「蘇」

新型コロナウイルスの感染対策によって全国的に学校の休校が相次いだため、保存がきかない給食用牛乳を有効に活用する方法が模索されました。このよ



▲まじないに使われた木簡 (豊前国府跡出土)

うな状況と「ステイホーム」の中、牛乳を煮詰めて作る奈良時代の乳製品「蘇」を復元し、牛乳の消費拡大に繋げる取り組みがSNS上で紹介され、多数のコメントが寄せられています。実はこの食品、貴重な「薬」として、当時の天皇、貴族に重宝された記録が残されています。詳細なレシピ等は不明であり、さらに平安時代以降には記録が確認できない「幻の食品」であることが、ユーザーを惹きつけ

る理由とみられています。今回は、この「蘇」をはじめ奈良時代の薬についてご紹介いたします。

古代の医療「まじない」

「病は気から」という諺がありますが、古来より「病氣」は人体に取りつく「鬼神・鬼神」等がその原因と考えられ、これらの「病魔」を体から追い払うことが唯一の「医療」と呼べるものでした。

奈良時代に行われた「病魔」退散の方法としては、呪いの文言を木簡に記したものが多くみられますが、人体を木で模した「人形」を撫でたり、人の顔を書いた壺の中に息を吹き込ませ、体内の病魔を人形や壺に移した後、これを水に流す方法などがみられます。

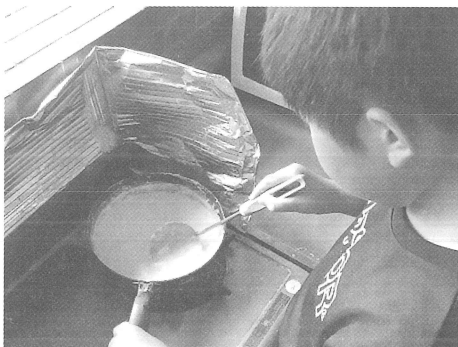
豊前国府跡(みやこ町国作)では木簡に呪いの文字や図像を記した「呪符木簡」が出土していますが、このような人形や木簡は時代を経て木から紙へと素材が変化します。町内の神社で7月31日に行われる「夏越祭」(御祓)では紙製の人形に家族等の名を記入して

神社に納め無病息災を祈ります。が、これらは古代の人形による「疫病退散」の形態を今に伝える事例とみられます。奈良時代は、このような「まじない」から薬等を用いた新たな医療へと発展を遂げた時代でもあります。

世界最古の薬

聖武天皇ゆかりの品々が納められた東大寺の正倉院は、現在ユネスコの世界遺産に登録されています。この中には「正倉院薬物」と呼ばれる当時の薬やその素材をみることもできます。

84薬種から構成されるこれらの薬ですが、時代を超えて伝えられたものとしては「地上に残る世界最古の生薬」に位置付けられています。薬の原産地は現在のトルコ、シリア、インド、ベトナム等様々な国に及び、シル



▲牛乳をかき混ぜながら、煮詰めます

クロードに代表される様々な交易ルートを通じて伝えられた事が確認できるなど、医療の歴史のみならず、当時の交易圏を復元する上で大変重要な史料として関係国から注目されています。

この中には現在でも代表的な漢方薬として服用されている甘草、大黃等もみられ、薬の一部は前号で紹介しました光明皇后の施薬院の治療にも用いられたことが確認されています。

良薬は口に「旨し!」

聖武天皇は、仏教を深く信仰していたことから、殺生を伴う肉食を禁じる法令を發布します。しかし意外にも牛乳や乳製品については「薬」として飲食することが勧められました。典薬寮(現在の厚生労働省にあたる)には、現在ではみられない「乳



▲完成した「蘇」。幻の味とは?

牛院」という部署が設けられ、その名が示すように牛乳や様々な乳製品の加工・生産を担当していました。ここでは現在のクリームチーズのような「蘇」、バターにあたる「酪」、バタークリームのような「醍醐」などが製造されたと推察されています。(形状や味については様々な見解がみられます) スイーツ素材のようなこれらの乳製品は、皇室等に「薬」として納入された可能性が高く、特に「醍醐」は非常に「おいしい」薬であったとみられ、これが「最高においしいもの」の代名詞「醍醐味」の語源とされています。

薬の歴史とその開発

医療の歴史は病気との闘いの歴史であり、現在、私たちが服用している各種の薬も、世界各国の歴史の中で様々な病気と向き合うことによって培われた先人の知識や経験に基づいて開発されてきたことが分かります。

新型コロナウイルスの特効薬の開発が世界中で急務となっており、国境・時代を超えて現存する「世界最古の薬」は現在の私達に一三〇〇年前の人々が病と向き合った「記憶」を語りかけているように感じます。

(井上信隆)